

# 芸術の森地区社会福祉協議会

# ばんけいぬま

・芸術の森地区福祉のまち推進センター

第5号

平成15年3月31日

●発行●  
情報啓発部

常盤常生会会長 吉田義三

近郊の方々とお付き合いし常々喜んで居ります。

二十一世紀に入り介護保険制度が発足したが、介護に頼らざる健康な体を維持する必要が叫ばれて居ります。

私達老人クラブの会費の中でも常々その必要性を合い言葉に過ぎて居ります。その指導的立場である札幌老人クラブ連合会の働きでは、末端の小さな老人クラブ迄手の届かぬのが現況です。

そこで芸術の森地区社会福祉協議会の福祉のまち推進センターの地域老人を対象として、健康作りと心豊かな地域の集いを年に幾度となく催され面倒をみて下され、私達老人クラブ会員はその行事に出来る限り参加し、

これからも末永く私達老人クラブに温かいご声援を賜り度くお願い申し上げます。



## 増え続ける特養待機者

石山八区町内会  
福祉部長 赤塚勝昭

特別養護老人ホームが満員で申し込んでも入所は何年先か分からぬ状況が続いています。

介護保険の創設にあたって最も心配していた「保険あって施設なし」が的中した形になつてゐるのだが当分解消の見込みはたっていない。

何故かというと政府の方針が「施設整備にはお金がかかるから介護は施設ではなく、在宅を

設と言っている人達である。施設入所を待たせるという事は給付を待たせる事である。

給付が必要な時に提供されない保険など介護保険以外には存在しない。給付なき保険はやがては消滅するからである。

介護施設を建設する予算がとれないというが東京湾アクアラインの建設費は一兆四千億円。この高速道路一本で二十万人分の特別養護老人ホームが建てられる待機者問題は解決します。

驚いたことに平成十一年には三・四%だった参酌標準が今年から三・二%に減ったのです。国は在宅と言うが待機者とは在宅での介護に限界を感じて施

# 「ばんけいぬま」に寄せて

# ばんけいぬま五号発刊によせて



芸術の森地区社会福祉協議会  
副会長 館岡恵美子

法の改正を憲法に法律に明記されている、私達老人クラブの活動計画の中にも大小はあるが、社会活動、福祉活動に参画し目的を達成して来ました。一番問題は長寿社会に生きる高齢者の「生き方」である、高齢者がお互いに支え合い、励まし合いながら長寿を喜んで居りますが、これも社会福祉協議会の指導の中で味合い、常々感謝致して居ります。

巨大な商業空間が札幌の玄関のシンボルに居座ったJRタワーの超豪華な吹き抜け建築と、画面からもあふれそうになる品物に目を見張りつつ、出会いと別れのドラマの駆け脇役、札幌の匂いも希薄に感じる時代の流れに一寸淋しさを感じました。生まれ育ちが札幌の私には、家族的に人情味豊かな心安らぐ店を懐かしく想います。幸いなことに南区は緑の山々が近く連なり真駒内川のせせらぎも心地良く、

四季を通して自然を身近に感じることの幸せを今深く思いをこらし、これは自然から頂く福祉の一端と感謝しております。

平成十年九月、福祉のまち推進センターを開設して早くも五年目、動きも軌道に乗りつつあります。推進委員の方も肩を張

最近の気象の悪化、加えて各國の不穏な状況の中で、私達は全く先の見えない状況におかれています。せめて近隣の方達とはお互い思い合い乍らの関係を大切にしていきたいと思います。



## 街頭募金に一考を

常盤明常会会長 岩田実

例年共同募金の時期（十月・街頭募金）になると老人クラブへ画一的に参加要請がある。時代のすう勢からこの要請は、廢止すべきと思うがいかがなものか。

私の所属する常盤明常会は、昨年から左記理由を付して辞退した。しかし毎月の例会で募金は、従事中の転倒事故等を考える時、辞退すべきと判断した次第である。

昨年辞退を明確に回答した後、南区老人クラブ連合会の会長多數に動向をきいてみると、辞退理由を示さないままの不参加。又、要請があるので仕方なく参加するクラブもあるという。

共同募金委員会も高齢化の実態を検討し、新たな視点で街頭募金に取組む時期と思うが、識者のご意向を知りたいと思う。

高齢化が加速進行しいづこの

らず自分達に出来ることで、身近な方達が楽しく安心して暮らせる様、助け合いの知恵を語っております。

報道ではコンビニで各自の健診断が可能な機械を開発中のことです。医者が患者に接する安心と優しさの大切さが、スピード優先の機械に振り回される不安もあります。

最近の気象の悪化、加えて各國の不穏な状況の中で、私達は全く先の見えない状況におかれています。せめて近隣の方達とはお互い思い合い乍らの関係を大切にしていきたいと思います。

以上



福祉に携わつて

常盤二区  
福祉推進員  
前田恒子

日増しに雪解けも進み、長か  
た冬も終わりを告げようとして  
おります。

私たちの常盤一団町内会福井部は、こどもから大人まで地域住民が安心して生活できる“住みよい環境づくり”を目指しています。

「要支援世帯の把握」「ネットワー

# 福祉のまちづくりは ボランティアから

芸術の森地区社会福祉協議会 福祉推進部長 松田正輝

「福祉」の意味を辞書で引くと多くの人々の幸福と書いてあります。芸術の森地区社会福祉協議会には民生委員の方も青少年育成委員の方々等多くの人々が地区の幸福つくりに推進センターに参加して活躍されております。近年、何々老人福祉施設とか丸々介護支援など書いた車が目に付きます。お年寄りや体の不自由な方を搬送する介護車両の様ですが、忙しく走り回っている様に見受けれる事があります。介護施設の職員の方々は決まつた時間でその仕事を消化しなければならないのでしょうか。

# 町内会地域と「福祉」の回り

民生・児童委員のつぶやき

私たちが毎日生活しているこの町、この国は、21世紀を迎えて大きく変わろうとしています。戦中・戦後をとおして今日まで国づくりから私たちの生活に至るまで国が中心となってつくられ保障もされてきましたが、衣・食・住から全てにおいて満たされた現代社会では、個人の生き方が問われる時代となりました。少子化・高齢化・核家族化は、時代の発展により止むを得ない現象であると思われます。今日の社会や、家庭環境の急激な変化は、昔から培われてきました近隣での“助け合い”という住民意識も薄れています。ボランティアとは、特別な奉仕活動ではありません。地域住民との“ふれあい”的な場づくりがあります。子供から高齢の方まで、障害のある方もない方も一緒にやって地域で元気に暮らすための活動であります。「お互いに支え合うやさしい街づくり」が目的であります。私たちの町内会では、一人暮らしの高齢者の方との“昼食会”や、老若男女で楽しめる“カルタ会”などを定期的に開催しています。又この度は、ギネスにチャレンジというタイトルで、“雪だるまづくり”にも挑戦いたしました。

「福祉」の意味を辞書で引くと多くの人々の幸福と書いてあります。芸術の森地区社会福祉協議会には民生委員の方も青少年育成委員方々等多くの人々が地区の幸福つくりに推進センターに参加して活躍されております。近年、何々老人福祉施設とか丸々介護支援など書いた車が目に付きます。お年寄りや体の不自由な方を搬送する介護車両の様ですが、忙しく走り回っている様に見受けれる事があります。介護施設の職員の方々は決まった時間でその仕事を消化しなければならないのでしょうか。

人手の係るお世話を誰かがしてくれるることは、介護を必要とする人や家族にとって安堵の時

誰かが病気で病院の先生や護師さんに看護されると家族人は安心して家に帰れます。当たり前の事ですが、有りいと言う感情がそこに生まれます。人の感情は有り難いの裏もあります。私は言葉が下手から誤解にならない様に特に意しています。「自分はまだい・何処も悪くない・私は元だ」こう云う言葉がある時『入』した合図と考えています。地域内で直接の支援活動はだしていませんが、地域に何の悩み事が起きた時は、福祉進センターの紹介等相談の窓くらいは出来る様にと思つてます。

「民生委員」と呼ばれる制度が生まれたのは、昭和二十一年（一九四二）からである。その前は、大正六年、岡山県の済世顧問制度として誕生し、翌大正七年に大阪府で方面委員制度が創設され、北海道では大正十二年に補導委員が誕生した。方面委員や補導員が誕生した背景には、大量の生活困窮者救済があり、「救護法」を円滑に執行することが使命であった。その後、時代の変化に対応し平成十二年民生委員法が大幅に改正され、民生委員は社会福祉の精神をもつて、常に住民の立場に立って相談に応じ、及び必要な援助を行ない、もって社会福祉の増進に努める福祉の先兵と指定されまし

を顧みるとき、高齢者福祉対策のほか、こどもからおとなを対象とした生活環境づくりに取り組む点からも福祉推進員としての研鑽はもとより、他の町内会福祉支援団体との情報交換、交流を今以上に重ねることの必要性を痛感いたしました。それがより質の高い福祉活動の提供に至ると信じます。

一人ひとりの小さな親切で温かい心の交いあう地域参加型の福祉づくりに皆様のご教示を賜りながら努力して参りたいと申します。

私は全国行脚し、引越し十六回、この町に住んで十六年。何と素晴らしい方々に囲まれ幸一杯で感謝。更に緑多く空気は実にうまい。加えて芸術の森・滝野すずらん丘陵公園・福祉関連施設、長年に亘って風化した自

国際化た・少子・高齢化た・字よりカタカナ使用者が時代尖端行くのだという感等……和一桁の僻みか、悩みか。枯すすきには間違いなしだが。テレビ・新聞等で恐ろしき事件・事故の連続・国境なしの考え方・見方につき予想し

発している。わが町にも当然だ  
という考え方、その先手は……。  
身近なことから小中学生の「元  
気な声での「おはようございま  
す」若返ります。隣人等の「元  
氣かね」「雪が多いね。手助け  
は」春以降「この花何という名  
前?」「株頂戴よ」……この一言  
一言本当に「心が通っている」  
これが「挨拶」の本質で人と人  
との距離。間隔を縮めるという  
大切さがあるのでないでしょうか。  
人の世「モヤ・モヤ」解  
消策で如何でしょうか。安心し  
て暮らせる町へ更に一步前へ。

発している。わが町にも当然だ  
という考え方、その先手は……。  
身近なことから小中学生の元  
気な声での「おはようございま